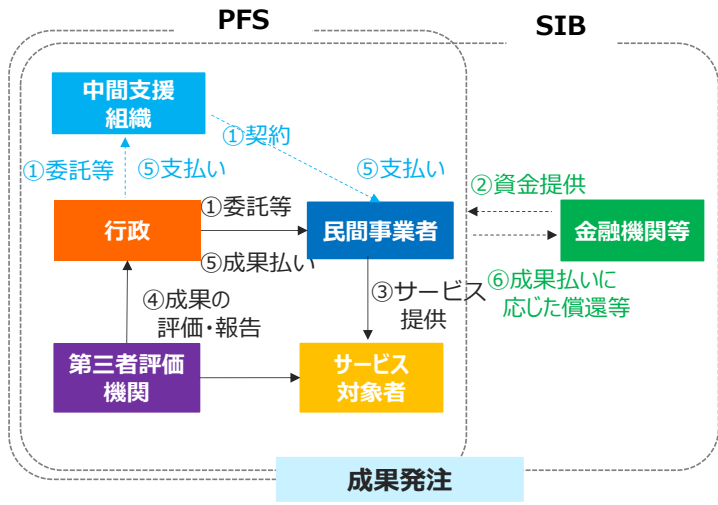
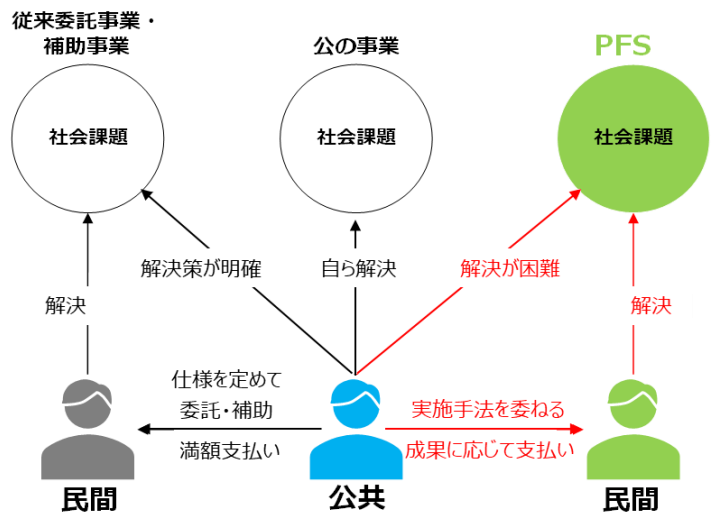


- PFS（Pay For Success）事業では、事業の実施について民間事業者に一定の裁量が与えられ、成果指標の改善状況に連動した委託料を設定。より高い成果の創出に向けたインセンティブを民間事業者に働かせることが可能となり、財政支出の効率化、政策目的の実現やその効果を最大化することも期待。
- まちづくり分野においてもPFSの導入を推進するため、既存のSIBに係る手引きを「まちづくり分野への成果連動型民間委託契約方式（PFS）の導入にかかる手引き」として全面改定。

■PFSの概要



【参考】 まちづくり分野における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_fr_000005.html

■まちづくり分野におけるPFSの特徴と効果

- **事業・関係者の多様性**
 - ・ ロジックモデルの作成を通じて段階的な効果イメージを共有 → **多様な関係者の合意形成に寄与**
 - ・ 民間の自由な発想での事業提案 → **効果の最大化**
- **取組の長期性**
 - ・ 一般的に効果を測定するのが困難なところ、ロジックモデルの作成を通じて、指標と測定方法を設定 → **事業効果が測定可能、官民共通のマネジメントの仕組みとして機能**

■手引き構成

基礎	1. PFS導入の背景
	2. まちづくり分野におけるPFSとは
実務編	1. PFS事業の全体像
	2. 各ステップの概要及び留意事項
	ステップ1 社会課題解決のためのPFS導入の検討
	ステップ2 案件形成
	ステップ3 民間事業者の選定・契約
参考	ステップ4 事業実施
	ステップ5 評価、支払い
	1. まちづくり分野におけるPFS導入事例
	2. まちづくり分野におけるPFS活用のイメージ
	3. 参考となるガイドライン・事例集等

- まちづくり分野におけるPFSの導入事例について、導入の経緯や実施に当たって苦労した点も紹介。
- 現時点では導入事例が少ないことも考慮し、まちづくり分野におけるPFS導入のきっかけとなるような活用イメージも併せて例示。

先進事例

PFS・SIB導入の先進事例として、前橋市と島田市の事例を紹介。

前橋市

対象エリアの歩行者通行量の増加とまちづくり分野での成果の可視化を目的とした事業。
歩行者通行量を成果指標としSIB事業を導入。



島田市

地域コミュニティの活性化、整備後の施設運営の適切な評価を目的とした事業。
一部の業務に対し、利用者満足度等を成果指標としSIB事業を導入。



参考となるガイドライン・事例集等

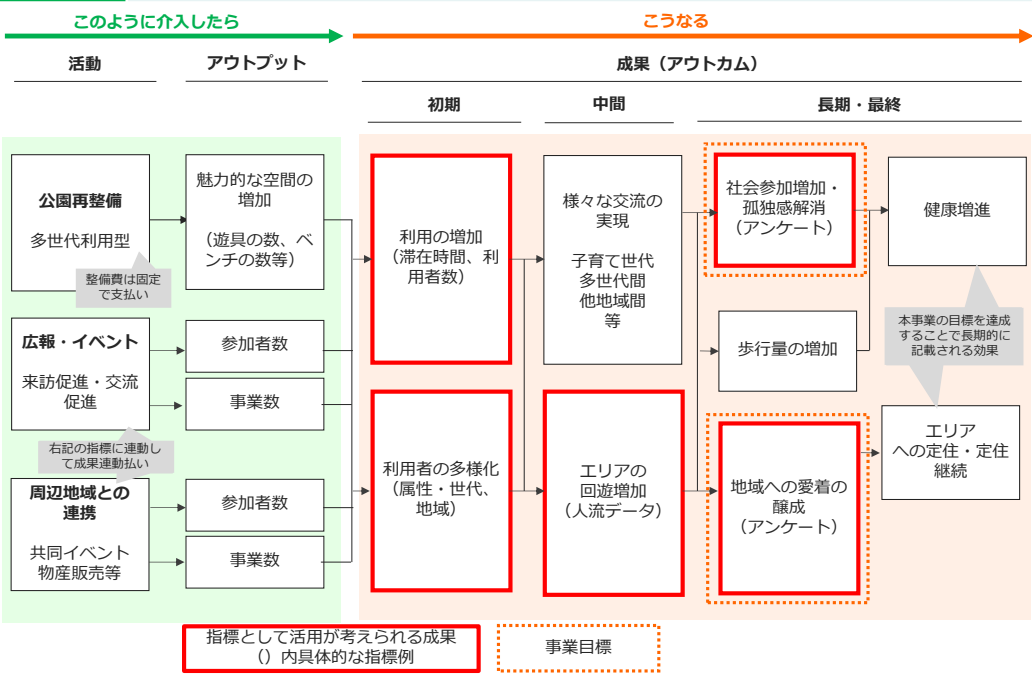
PFS全般に関するガイドラインや事例集のほか、ロジックモデルや成果指標の設定等に参考となる、ガイドラインや事例集等を紹介。

活用イメージ

公共空間等の管理・利活用、エリアマネジメント・地域活動など、PFS導入のきっかけとなるような課題等に対し、対象者・事業内容等を仮定し、活用イメージを例示。

(例) 都市公園をきっかけとした取組

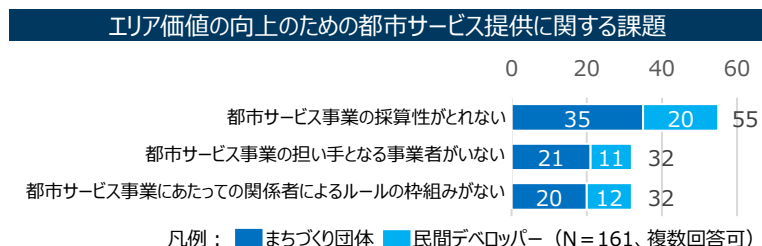
地域の課題	①地域住民の交流の促進、②遊び場・交流の場の創出、③孤独感の解消、④公園の老朽化
事業目標	地域への愛着の増進、社会参加増加・孤独感解消
事業内容	①公園再整備、②広報・イベント、③周辺地域との連携



- エリアマネジメントの重要性が高まっている一方で、財源の確保・担い手の確保・関係者間の合意形成が課題。
- エリアマネジメント活動が地域に与える効果を適正に評価することで、活動の見直しや改善を図るだけでなく、関係者の合意形成や、エリアマネジメント活動による受益者負担を促し、新たな人材のエリアマネジメント活動への参画促進など、現状の課題解決へ繋げていく。

■ エリアマネジメント活動における課題

エリアマネジメントの担い手であるまちづくり団体等からは、採算性や担い手確保、合意形成が課題として挙げられる



■ ガイドライン活用のターゲット

エリアマネジメント団体が自らの活動を評価する際に活用することとあわせて、関係者の方たちにエリアマネジメント活動の効果を理解・認識していただくことを想定



■ ガイドラインで示すエリアマネジメント活動の評価手法

エリアマネジメント活動の**内容（アクティビティ）**と**活動結果（アウトプット）**、**活動効果（アウトカム）**を最終目標とする将来像までロジックモデルでつなぎ合わせていき、ロジックモデルの各段階にある活動結果や活動効果を評価する指標を設定することで、エリアマネジメント活動による効果を段階的に評価する手法を提示

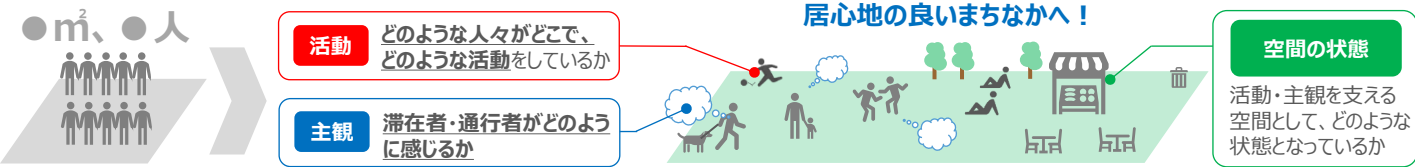


【参考】評価指標の充実化 ②まちなかの居心地の良さを測る指標

- ハードの整備状況や滞在者・通行者数の状態に加え、滞在者・通行者がどのように場を利用しているか【活動】、どのように感じるか【主観】に着目し、それらを「居心地の良さの4要素」に分類して、居心地の良い空間が形成されているかどうかを、より人間らしい視点から把握するための指標を作成。
- エリアのビジョン等に応じて、まちづくりの実践者自らが指標となる項目を選択・追加しながらエリア独自の指標を設定し、まちなかの居心地の良さを体現する空間や人々の状態を定期的・定点的に調査、可視化することで、どのように空間を育てていくのか、どのように空間を使えたらいいかなど関係者間で意見交換を行う際に、本指標が議論の素材として活用され、気づきのきっかけになることを期待している。

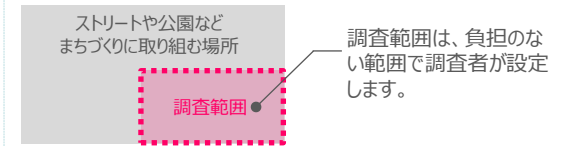
■ 目的・基本的な考え方

都市空間の状態を、面積・人数などの「量」だけで捉えるのではなく、【活動】や【主観】などの「質」を可視化し、その場の強みや弱みを分析・考察して改善を重ねることで、単なる空間（スペース）から居心地の良いまちなか（プレイス）へ場を育てます。



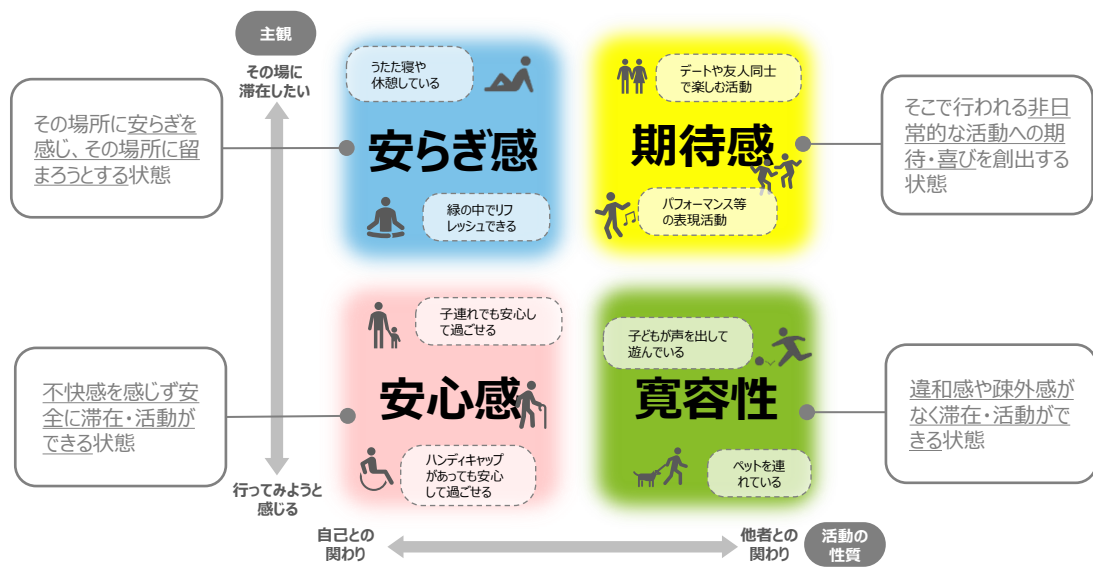
■ 活用主体・対象地

地方公共団体や民間まちづくり団体等のまちづくりの実践者が、まちづくりに取り組む場所で活用することを想定しています。



■ 居心地の良さの4要素

本指標は、居心地の良さを安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の4つの要素にグルーピングし、対象地を要素ごとに把握します。居心地の良さの4要素には各項目の指標を設定し、項目ごとに【主観】と【活動】を計測します。



▼ 計測イメージ *滞在者・通行者がどのように感じるか、調査者（2～3人）の主観で代替



- 主観（調査者が滞在・通行して感じられること）**
- 安心感#2**：安心して子どもが遊ばせられる場所だと感じる
 - 寛容性#2**：子どもが声を出して遊べる場所だと感じる
 - 期待感#4**：人が群がりそうな面白そう・雰囲気の良いものがある場所だと感じる
- 活動（調査時に見られる滞在者・通行者の活動）**
- 安心感#2**：子どもを遊ばせている
 - 寛容性#2**：子どもが声を出して遊んでいる
 - 期待感#4**：何かに人が群がっている
- 安らぎ感#1**：ぼーっとできる場所だと感じる
- 安らぎ感#3**：横になってくつろぎたい場所だと感じる
- 安らぎ感#5**：緑などに囲まれて自然を感じられる場所だと感じる
- 安らぎ感#1**：ぼーっとしている人がいる
- 安らぎ感#3**：横になって過ごしている人がいる
- 安らぎ感#5**：花壇や緑などを眺める人がいる